第44回日本糖質学会年会

クリニカルランチョンセミナー

日時：10月4日（土）12：05～13：05
会場：弘前文化センター　文化センター2 階　小ホール

演題名：
コア型フコシル化タンパクによる前立腺癌バイオマーカーの開発と進行性前立腺癌の治療戦略

演者：
近畿大学医学部　泌尿器科学教室　主任教授　藤田和利　先生

講演要旨：
ホルモン感受性転移性前立腺癌はイクスタンジなどの新規ホルモン剤により予後が改善するが、去勢抵抗性を獲得すると予後不良であり、早期発見が重要である。前立腺癌マーカーである血中 PSA は特異度の問題などがあり、新規バイオマーカーの開発が必要である。コア型フコシル化は前立腺癌で特徴的にみられ、悪性度の高い前立腺癌患者で増加している。本講演では、コア型フコシル化に着目した血中バイオマーカーの開発について述べる。

演題名：
MHC イムノペプチド解析が明らかにしたがん抗原の正体とがん免疫療法への応用

演者：
札幌医科大学　名誉教授
札幌臨床検査センター　先端的検査医学研究センター長　鳥越俊彦　先生

講演要旨：
MHC class I 分子は細胞表面に抗原ペプチドを提示し、T 細胞は抗原受容体を介してこれを認識する。がん細胞は正常細胞とは異なるペプチドを提示するため、T 細胞はがん細胞を識別することができる。我々は、マススペクトル解析によって網羅的にペプチドを解析し、免疫原性抗原ペプチドの構造を解明してきた。本講演では、これまで明らかにしたがん抗原の正体とがん免疫療法への応用研究について紹介する。

共催：第44回日本糖質学会年会/アステラス製薬株式会社